

<巻頭言>



新年にあたってのご挨拶

橋 本 徳 昭*

新年明けましておめでとうございます。会員各位の皆様方におかれましてはご家族様共々佳き新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

日頃から皆様方には、当会議の運営に多大のご理解、ご協力を賜り、篤く御礼申し上げます。昨年6月の ICOLD スタヴァンゲル年次例会、大会には多くの方々にご参加頂きましたことに重ねて御礼申し上げます。同じ大会でも、3年前の京都大会は、内容、運営、参加登録料やホスピタリティいずれをとっても他に抜きん出たものだったなという想いを抱いてスタヴァンゲルに参加いたしておりました。何事も誠実にきちんとやるという日本人のDNAに加えて、皆様方の絶大なご支援の賜物であったのだと、改めて思い至った次第です。

さて、昨年を振り返りますと、自然災害の面では5月頃から、箱根で火口付近の温度が上がり入山規制がかかったのを皮切りに、口永良部島の火山の爆発と翌日の小笠原諸島西方沖地震 (Mj8.1)、さらには6月には浅間山、9月には阿蘇山が、噴火では常連の桜島に加わって、活動を徐々に活発化させるなど、日本列島の地下で何が起こりつつあるのかと思うような事態が続きました。さらには例年に無く多くの台風が日本に上陸ないしは接近したり、また9月10～11日には関東、東北地方の豪雨で、鬼怒川などが氾濫するという昨今の気象現象の異常さを垣間見るような一年でありました。これも悠久の地球史における「ゆらぎ」なのかもしれませんが、自然を相手にする我々としては非常に注目すべきことだと考えます。こうした自然災害とは別に、IS(イスラミックステート) の話題を年初からこの原稿を書いている今日に至るまでニュースの中で通奏低音のように耳にします。とくに11月13日のパリのテロに際しては、ICOLD と CFBR にはお見舞いのメールを JCOLD から送りましたが、幸い関係者が直接的には被害にあったことはなかったようです。海外を視野に入れているダム関係者の安全確保の観点で看過しえない懸念材料が顕在化してきています。自然の異常さや国際的なテロリスクは今後とも拡大しこそすれ、いずれも収拾に向う可能性は低いのだろうと思わざるをえません。

* 一般社団法人日本ダム会議 会長

それでは今年はどんな年になるでしょう？以前から書店を覗きますと、新自由主義やグローバリゼーション関連で賛否交々の書籍が並んでいました。ここ半年ほどは更にその傾向に拍車がかかったようで、爆発的な人気になったトマ・ピケティの「21世紀の資本」(この枕にもなりそうな大きな本、全編読んだ人は購入者の何%かな?)が契機となったのか、以降、ウルリケ・ヘルマンの「資本の世界史」、佐伯啓思「さらば資本主義」、さらにはもう資本主義が終わるかのような広井良典「ポスト資本主義」といった書籍が平積みにされる勢いがあります。先進国のみならず大国となってきた中国においても経済の足並みが鈍化してきたことからくる世界情勢の逼塞感が、こうした資本主義の先行きを懸念する潮流を醸成しているのでしょうか。私自身、ここ数年ダムに限らず国際会議に参加するたびに思うことが一つあります。それは年毎にアフリカの開発・発展に関わる議論が拡大してきたように感じることです。資本はより効率的に大きく利得を生む方向に移動するものです。持っている国が周辺途上国に資本投下を行うことを繰り返してこれまで経済は発展してきました。グローバリゼーションの流れに棹さず形で、とうとう最大の、そして(宗主国になったことのない日本などにとっては)未知数のアフリカに関心が辿り着き、眼が注がれてきたのだな(一部には資源外交を絡めている面もあるでしょう)と考えます。この動きがアフリカ各国に行き渡するには相当の時間を要するでしょうが、実現すれば資本はさらに何処へ向いていくのかなと思いをはせると、上記のようなタイトルの書物が続々と著わされるようになるのも宜なるかなであります。

ICOLDの前総裁がブルキナファッソ出身のノンブレ氏であったことは、まだ記憶に新しいですが、今年のICOLD年次例会が南アフリカのヨハネスブルグというのも、こうした流れを反映したものと言えましょう。南アは、ケープタウン、ダーバンと既に2回年次例会(内1回は大会併催)を経験している国ですが、ICOLDメンバーは南アでの3回目の開催に賛成したわけで、これも各国のアフリカに対する大きな期待感の現われだと考えられます。今回の例会は実際にこの目でどのような状況か確かめられる絶好の機会と申せましょう。世界一危険な街だそうですが、会員各位におかれましては、まずは各自安全策を十分に考慮された上で奮ってご参加頂きたく存じます。また、3年間の予定で実施中のダム耐震に関する日仏技術協力も最終年を迎え、8月末からフランスで取りまとめの会合が開催される予定です。さらには9月26~30日には札幌で第4回APGシンポジウムと第9回EADCを併催いたします。北海道を中心に関係者の皆様方におかれましては、特段のお力添えをお願いすることになりましょう。以上のような国際案件も含め、本年も当会議の運営へのご理解、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。末筆ながら、会員各位の益々のご繁栄をお祈り申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。